

~ 13
4328
1



六

イノウ

イノウ

+

+

+

+

113
4328
1

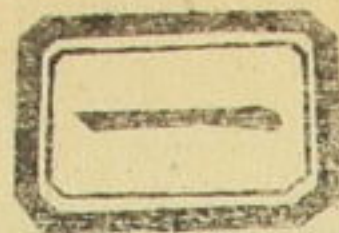
厚化粧

萬年
島岡

初編上

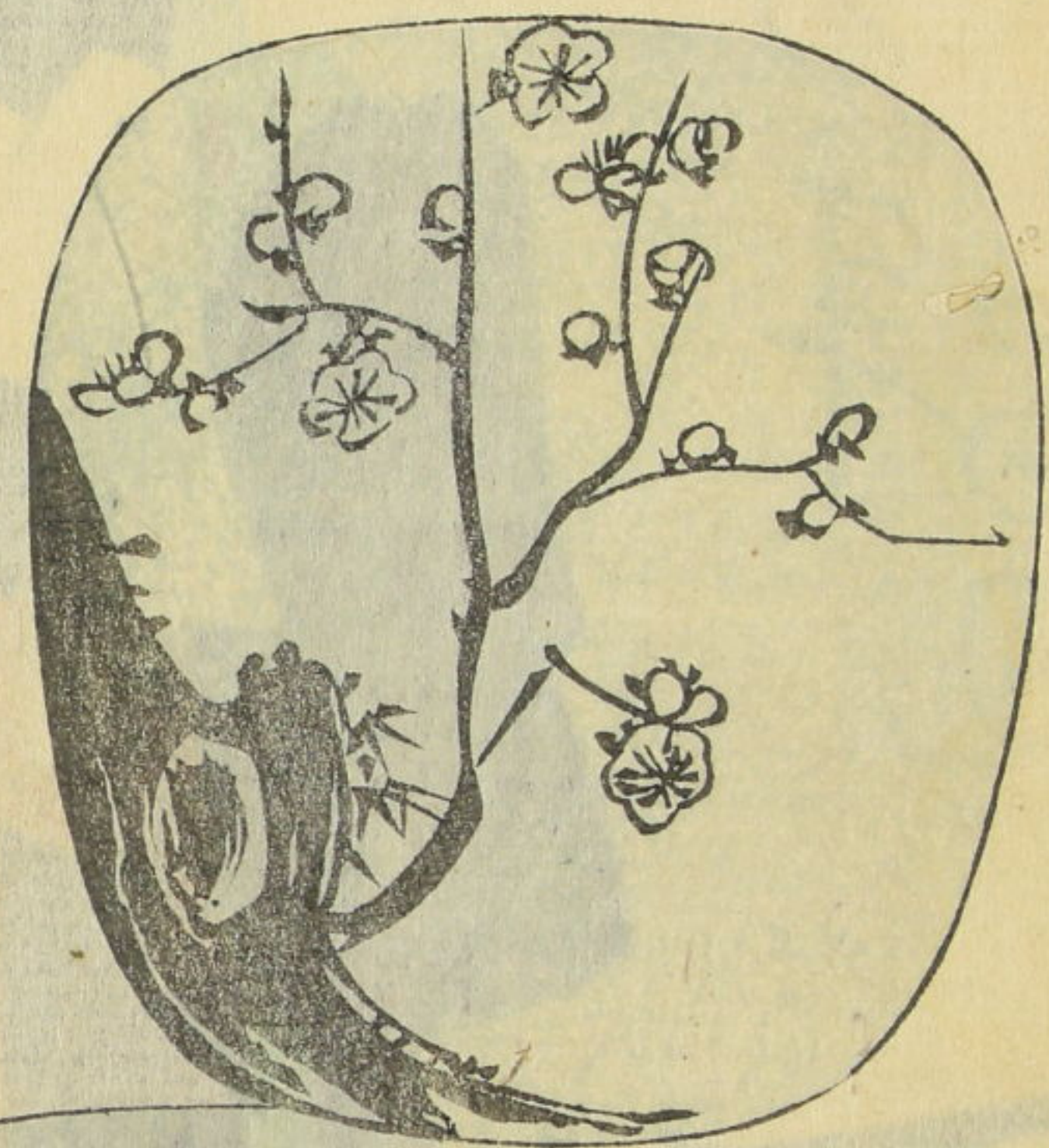


<2002-233>



浪花の
廻船問丸
来名屋
得兵衛

新助
妹阿百後
虚名
妃已
阿百と
云



厚化旅萬
年嶋田君
水化因貞
盡
初飾上

紅英堂文庫



孝女
小露

市川大領光之
芦田

葉川
乙女
之助
惟美

貞心在刃

雁代巻初

得兵衛の
女房
阿發



津の
細打の
新助

今小生もさう邈古を知り見ぬ世の人を友とせむる事
史ありて何うあるべき僕年来釋童のつめれ數種
の策子を綴るもの多し一時の戲墨めて春日秋夜の
徒然を慰めんとの所為ある今復爰小編出さるるあり硯の
濁江よ齋一生する津の根あり更ありあれども近世阿百と
喚ぶる古今未曾有の毒婦あり虚名を姐己といふる那討王の
妃も猶弥増して毒惡あるその物語小技業を添へ一茲小
初編の三番更々他へやうと板元が机の上より携へ往く
聽て梓の上とせむるあん。

戊辰孟春新鑄

爲永春水記

唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記

唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記

唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記



唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記
唐什物記

唐什物記

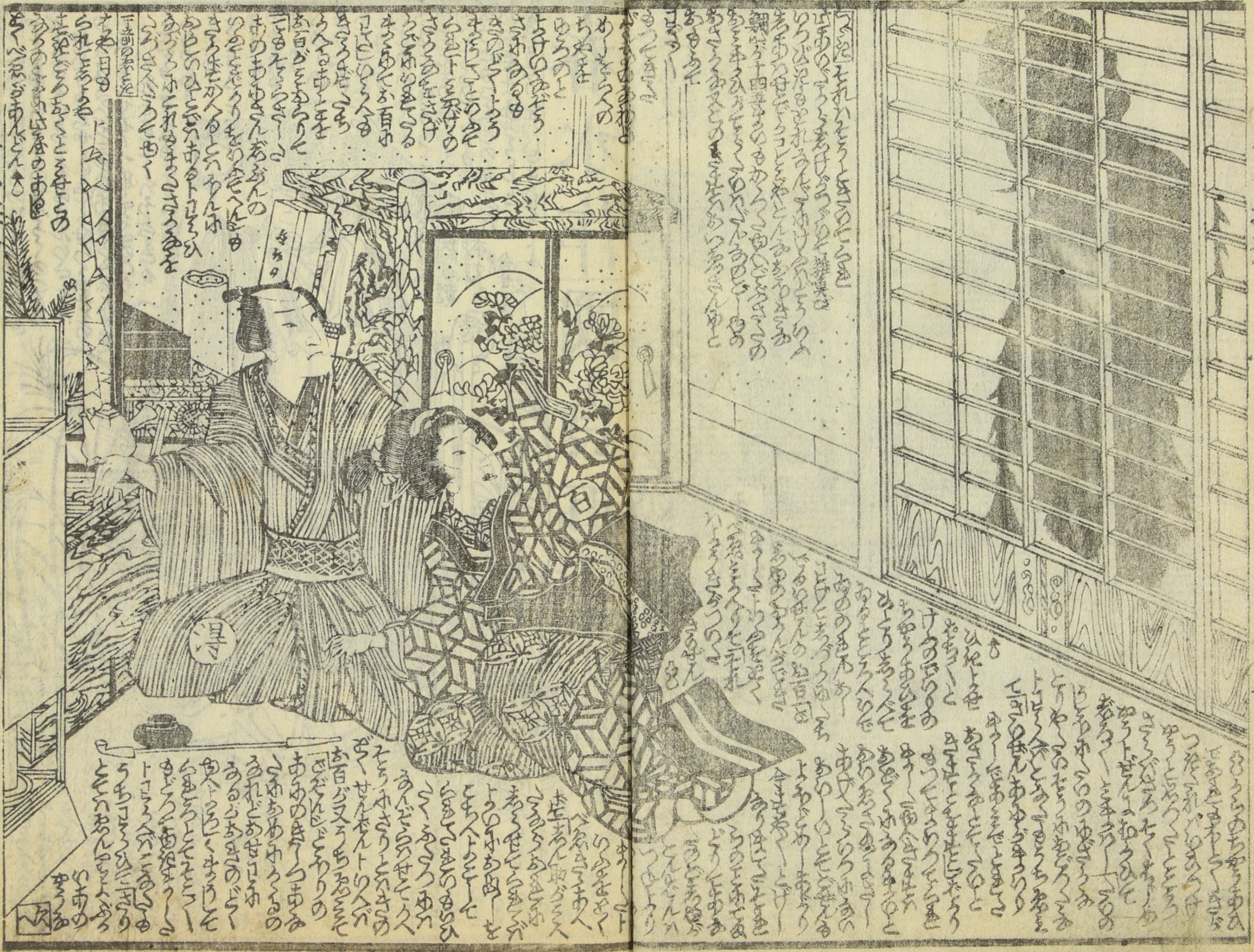


Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of dialogue or a narrative, located at the top of the page above the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of dialogue or a narrative, located in the middle section of the page, surrounding the central illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of dialogue or a narrative, located at the bottom of the page below the illustration.

Handwritten text on the left margin of the page.



享七注

享七注

Handwritten text in cursive script, located in the upper left quadrant of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the upper right quadrant of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the lower left quadrant of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the lower right quadrant of the page.

春水作國貞画



春水作國貞画
春水作國貞画
春水作國貞画

實母散

本家

私方実母さんの養へたり、頼りて申す所一丁目馬場の
千七年来賣り来り此店をせらるる成りて此國下
向もさう引りつり申す所、さうが成り向もさう上
中橋南傳馬町丁目東が
千葉堂孝輔製

鼠祠通夜譚

四編より
八編まで
上板仕り

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇より
追々出板
辰春勢とん

爲永春水作
梅蝶樓國貞画

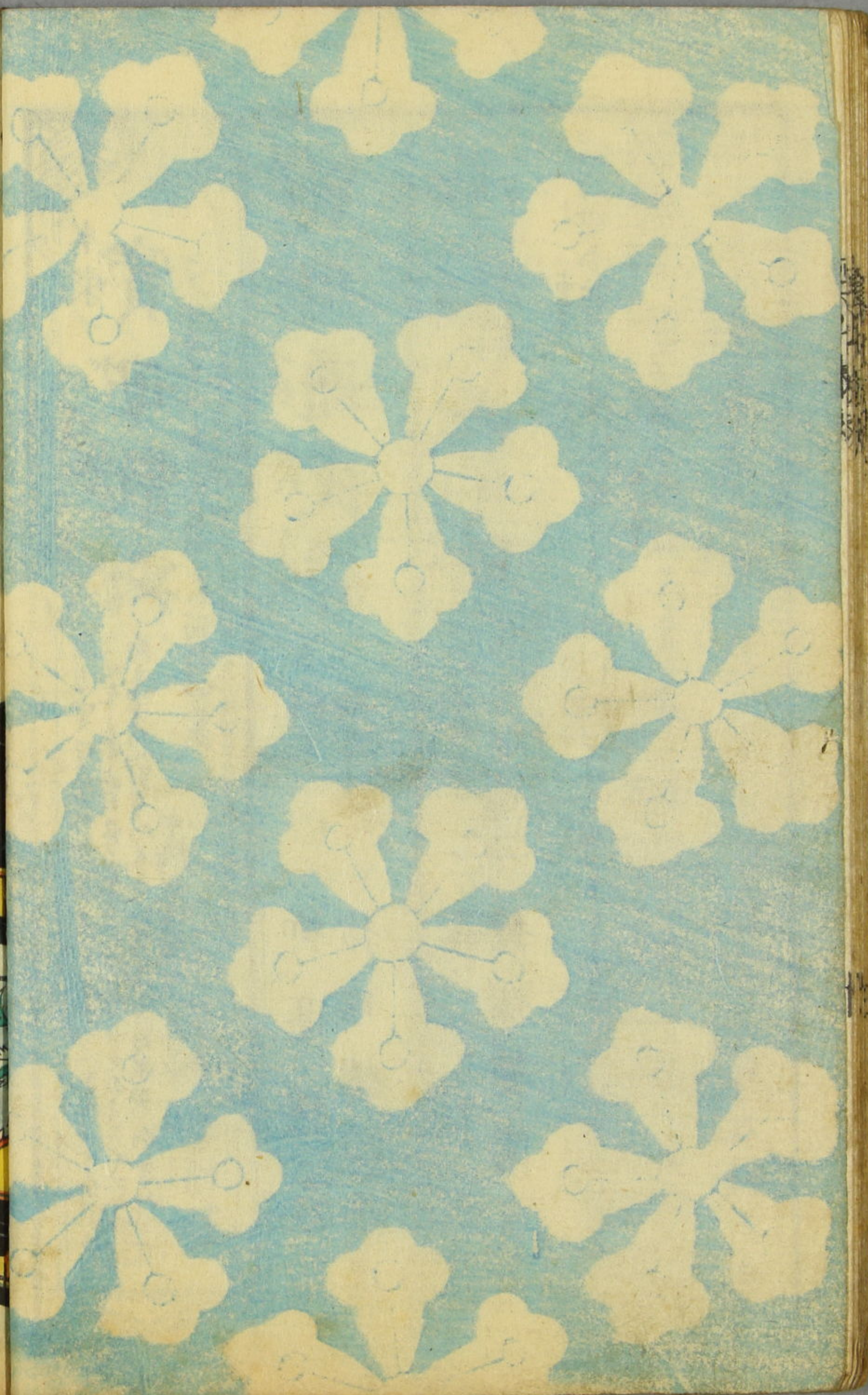
這へ世の普く沙汰せらるる
姉己阿百傳りて是れ和尚臭の惡靈
貞緑芦田の家小仇做んとて爰小忠臣孝女ありて渠が毒手小苦
あどとらるる衰もあて花やうなる宜く理の法と一草及紙小あん

為永作

團員

畫

初編下



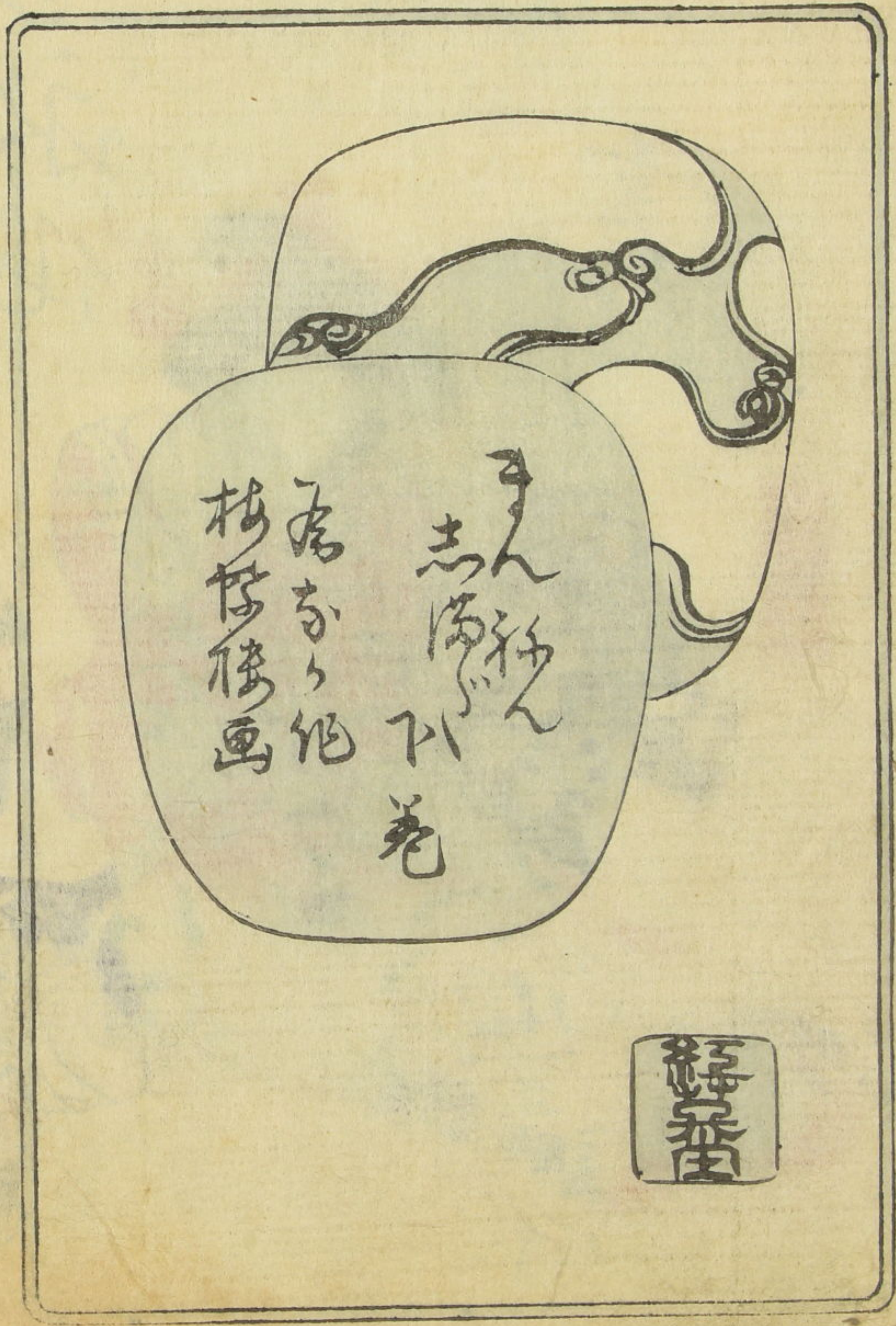
吉

吉



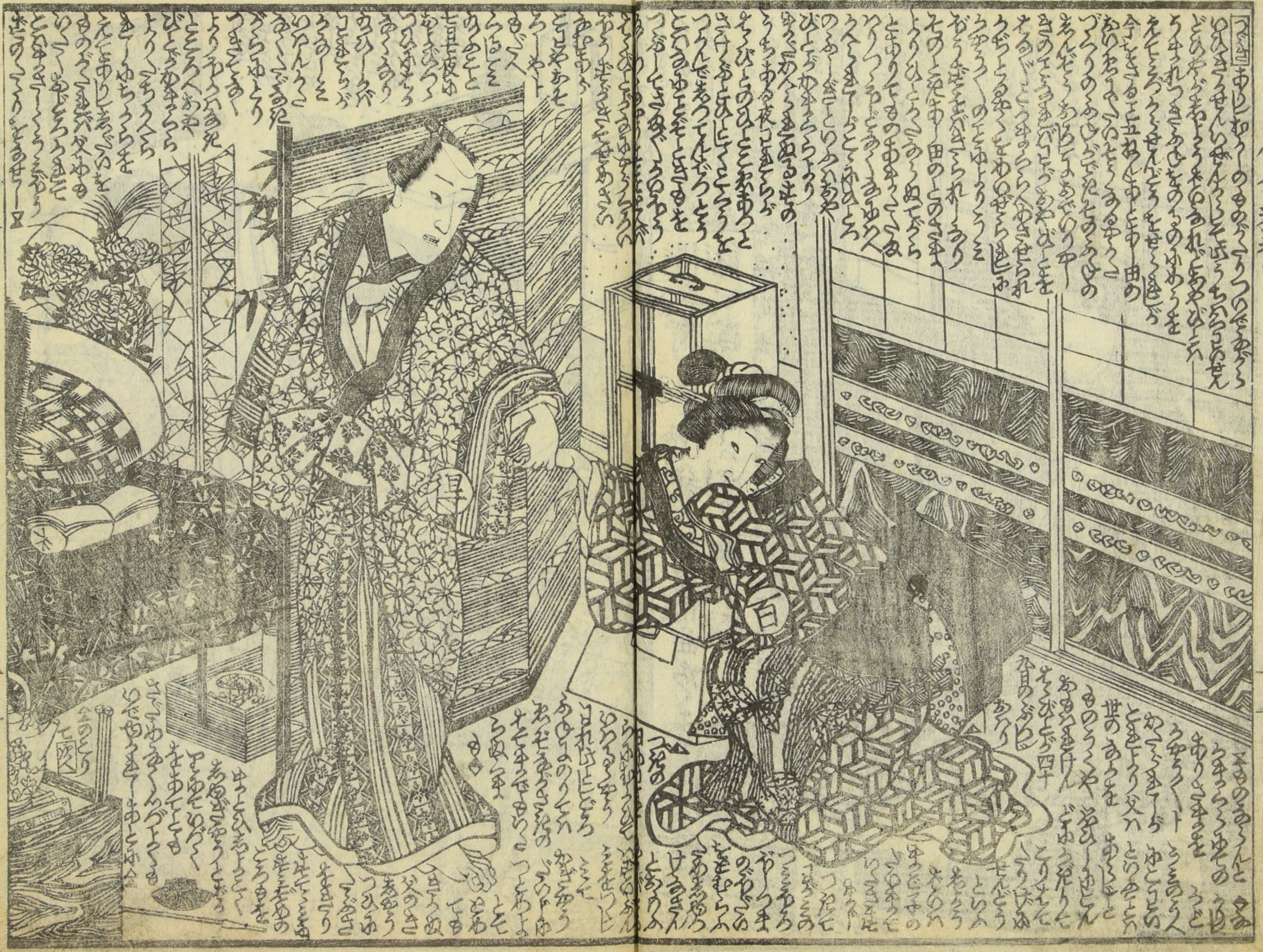
東之生口

得兵衛が妻阿發二個が情曲ある
寐を窺ふ繚れ次の編み永安

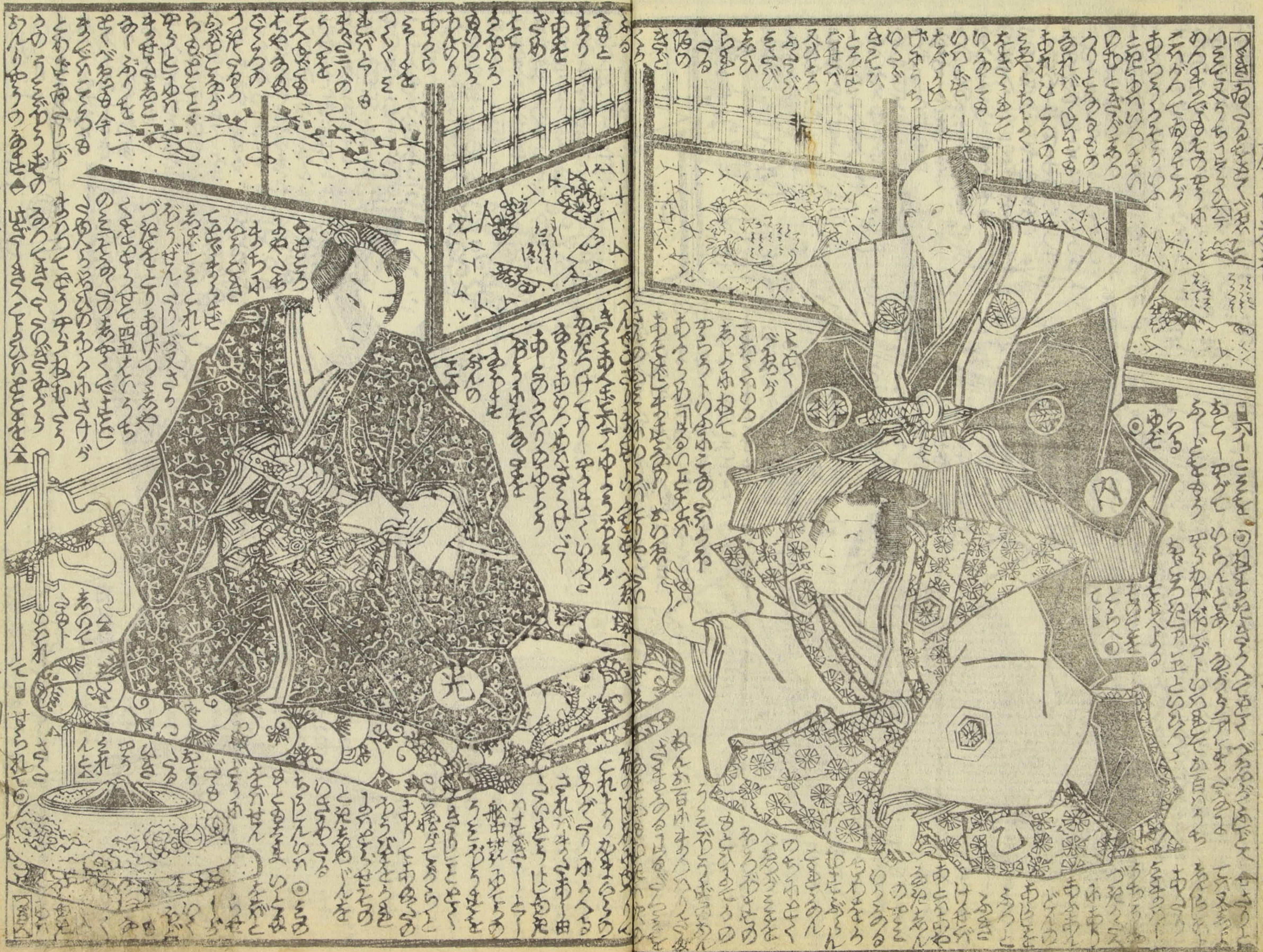


まんねん
志満が
下巻
君さう他
梅野楼画

梅野楼



八百廿七

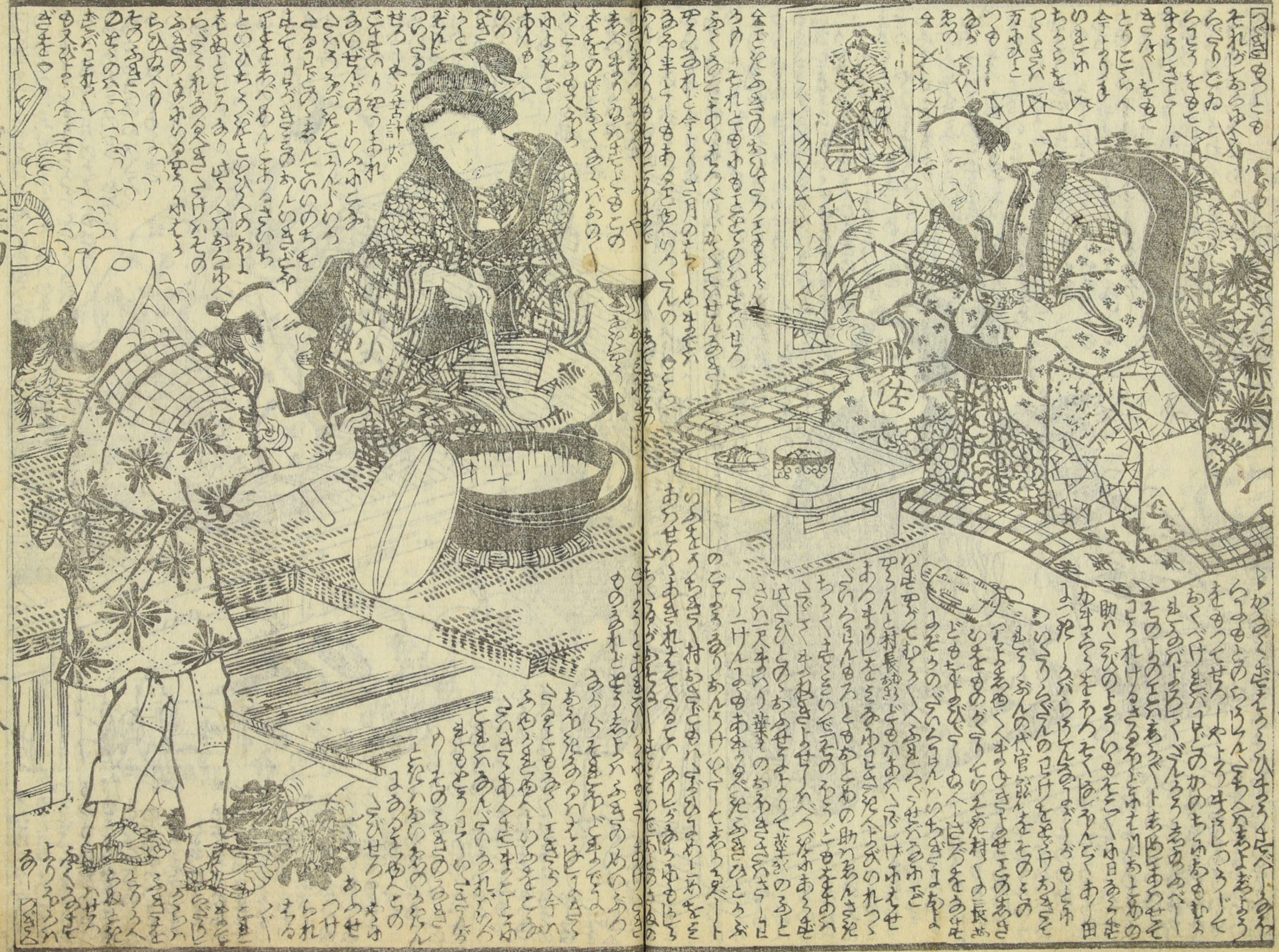


五ノ下

五ノ上

五ノ下

五ノ上

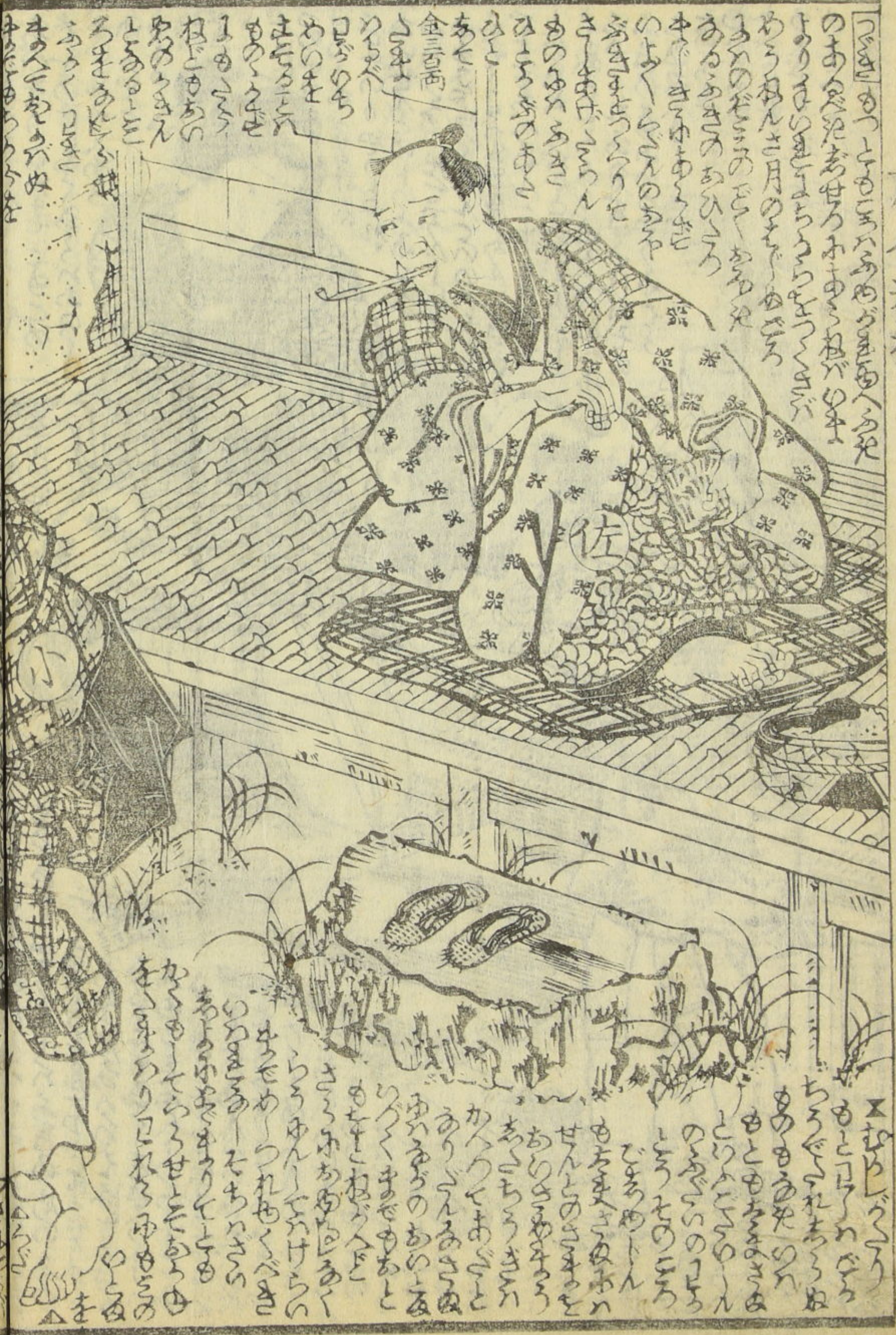


事七世

事七世

十七

Handwritten text in vertical columns at the top of the page, likely serving as a title or introductory text for the illustration.



Handwritten text in vertical columns on the left side of the page, likely serving as a title or introductory text for the illustration.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the page, likely serving as a title or introductory text for the illustration.

慶應四年戊辰陽春開板日

春水作國貞画

新局九尾傳 七編より 爲永春水作
十一編まで 梅蝶樓國貞画



室原氏胡蝶卷

十二篇種彦作
十三篇國貞画
十四篇國貞画
十五篇國貞画

假名情談戀畦倉

四編如阜作
大尾國貞画

童謡妙々車

七編種彦作
八編國貞画
九編國貞画
十編國貞画

薄倂幻日記

十七編春水作
十八編國貞画
十九編國貞画

七姉葛飾譚

九編種彦作
十編國貞画
十一編國貞画

筆海四國聞書

十一編種彦作
十二編國貞画
十三編國貞画

明鴉墨雨迺禰禱

十三編種彦作
十四編國貞画
十五編國貞画

花封茗茶草

十編種彦作
大尾國貞画

大傳大の双紙

四十九編柳喜錄
五十編國政画
五十一編國政画

鳥屋吉口藏板



傳作

二十



菜露とつのも草の名。茗荷とつのも草の名といひ琴の
 名小ゆふ組唄あるがその露をもて序開きの趣向あり
 くる冊子あれど水露の和らるる小那露の墓の苦さを
 加へ香よ匂はよる味ももるは作者が筆の擱と料理世話と
 時代の切和物のあん目の肥と看官の迎もか口小合ふとと
 思ひの他は初編うら駄物あつても柳意小入り。爰は二編の
 お替りを需めらるる小乗りが来り胡たより先へ摺る墨の
 曲り形も編を重ね書房が上野の富貴自在かの
 黄金の得ありと冥加なりとせんとするなり。

戊辰
 新春

為永春水記





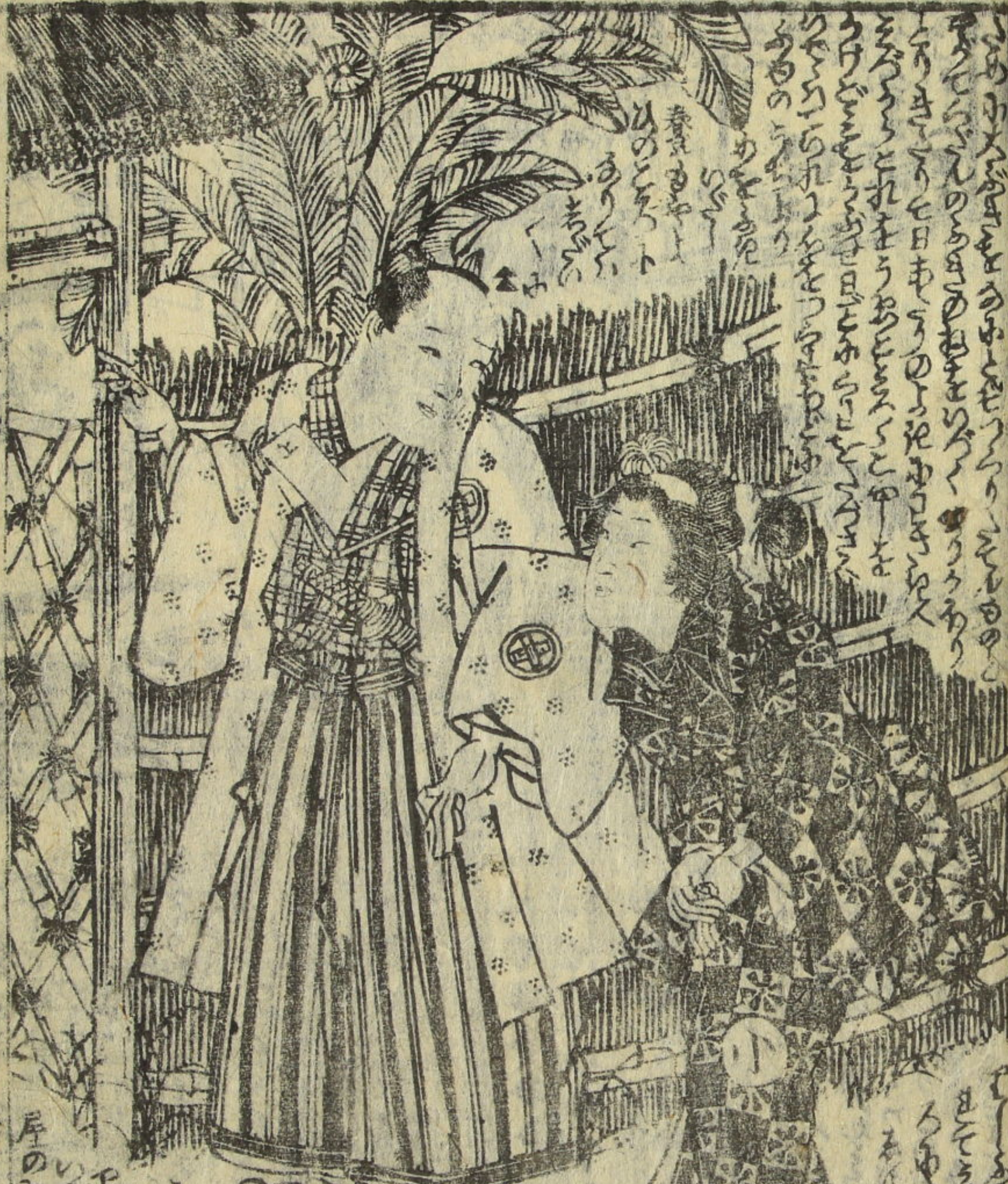
厚化粧

母
正木

丹後
那兒
那申

芦田
前の
大領
芳之

四



春のやうな
 ひのこころ
 まさか
 春のやうな
 ひのこころ
 まさか
 春のやうな
 ひのこころ
 まさか

宇留馬
 丹後李晴



春水作



あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

國貞画

あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの
あつちのあつちの

實母散

水家
おんせんさんごやんちのまじり
一切の邪氣

中橋南傳馬町一丁目東
千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

四編ヨリ山々亭有人作
九編迄梅朝樓國貞画

藪黄鵠八幡不知

山々亭有人作
錦朝樓芳席画

當春賣出... 柳蔭月... 朝妻... 外柳... 協以製... 本手廻ら... 近... 賣例... 段外... 聞芳... 自は... 春... 停... 入... 柳... 一... 當年... 後... 時... 積... 門... 諸... 國... 貞... 画... 錦... 朝... 樓... 芳... 席... 画... 錦... 朝... 樓... 芳... 席... 画... 錦... 朝... 樓... 芳... 席... 画...

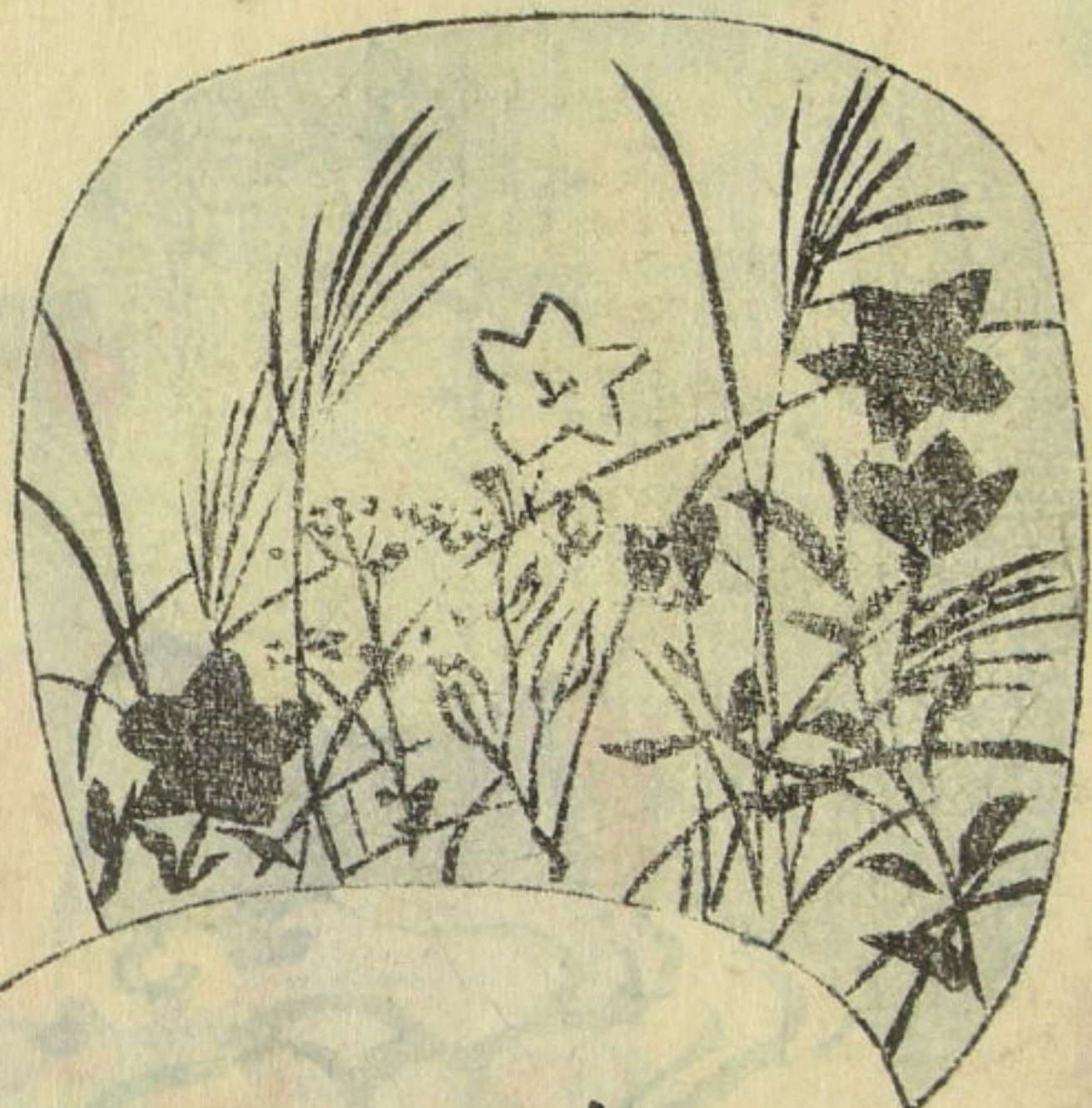
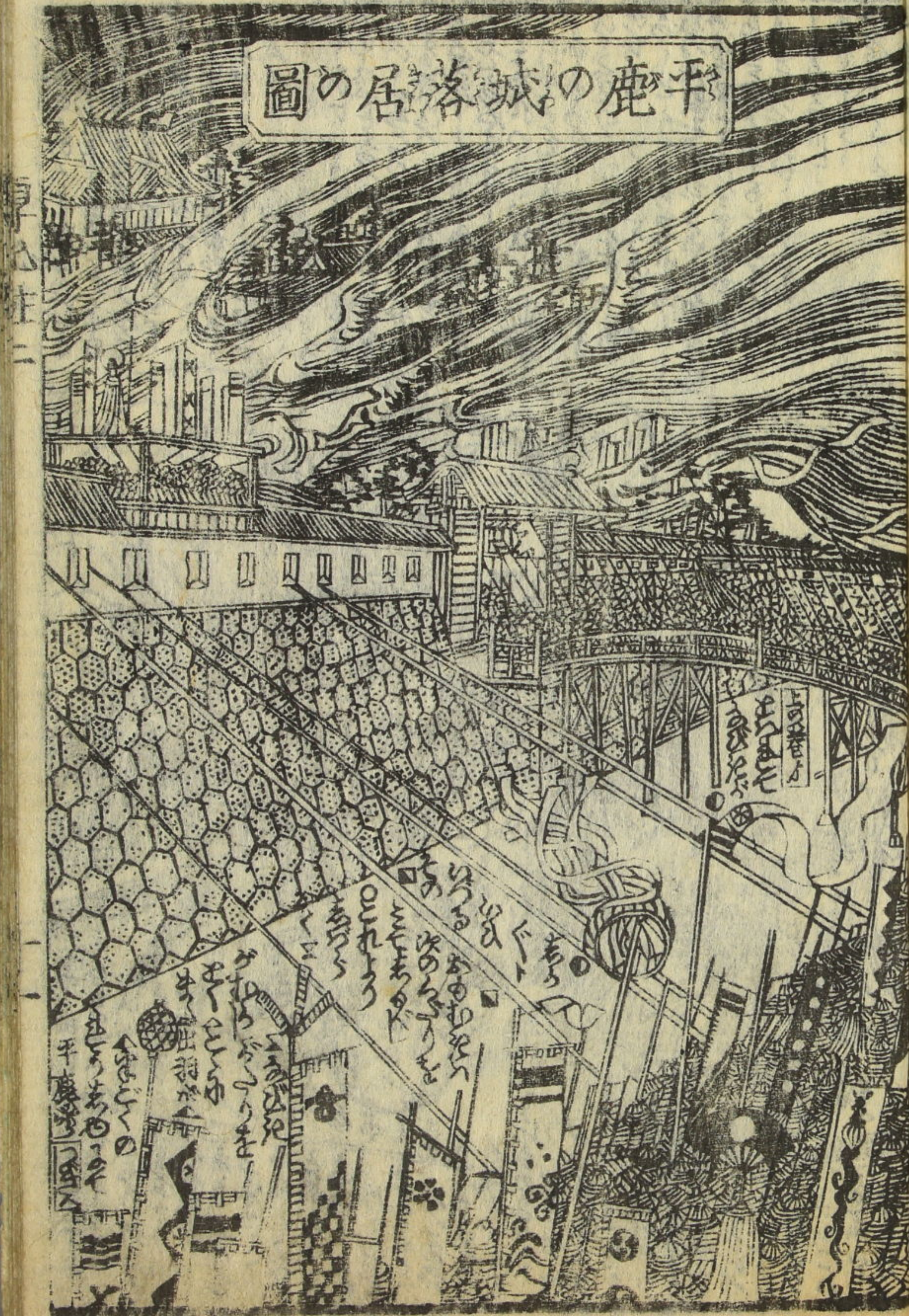


梅障
樓
画

二編下



平鹿の城落居の圖



あつた
やん 祈
る 田
二 早 下

Handwritten text in a cursive style, likely a Japanese calligraphic form, located at the top of the right page.

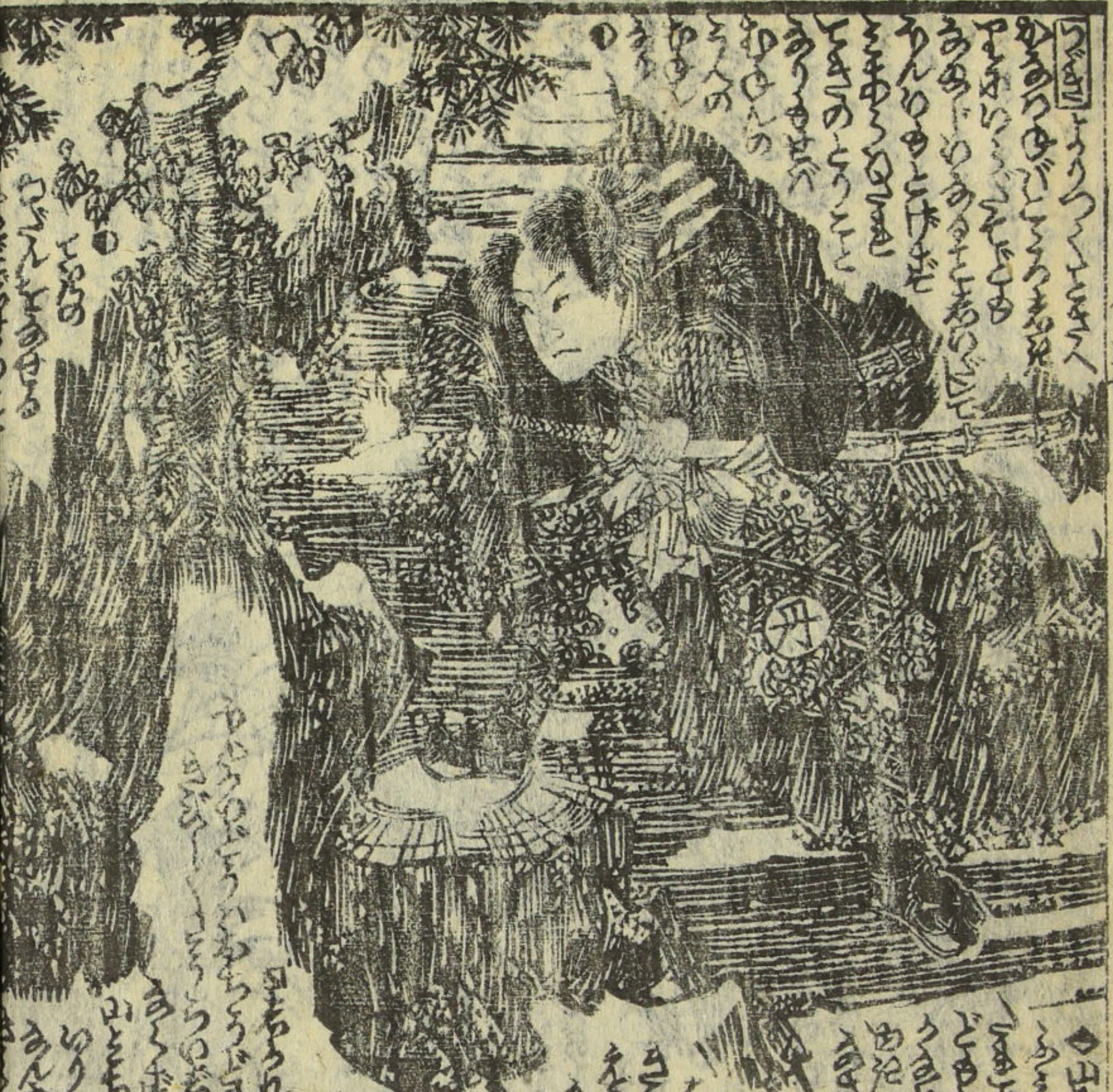


Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the right page, below the illustration.

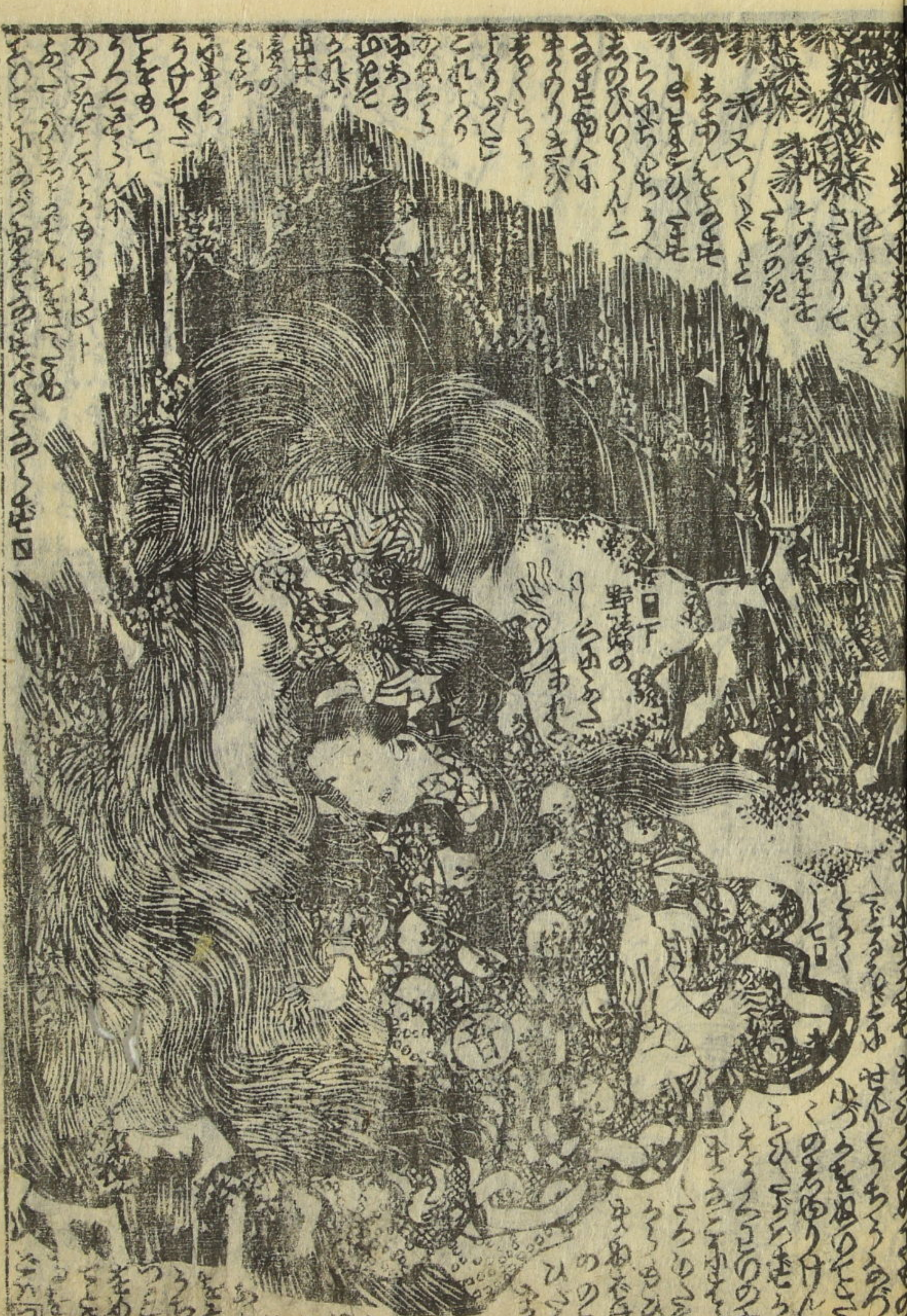
Handwritten text in a cursive style, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the left page, below the illustration.



Handwritten text in a cursive style, likely a commentary or a poem, located below the illustration on the right page.



Handwritten text in a cursive style, likely a commentary or a poem, located below the illustration on the left page.



あかね
さきばな
あさぎり
あまつか

あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか

あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか

あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか



あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか

あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか
あまつか



Extensive columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) are interspersed throughout the illustrations on both pages, providing a narrative or commentary on the scenes depicted.



厚仁巻一

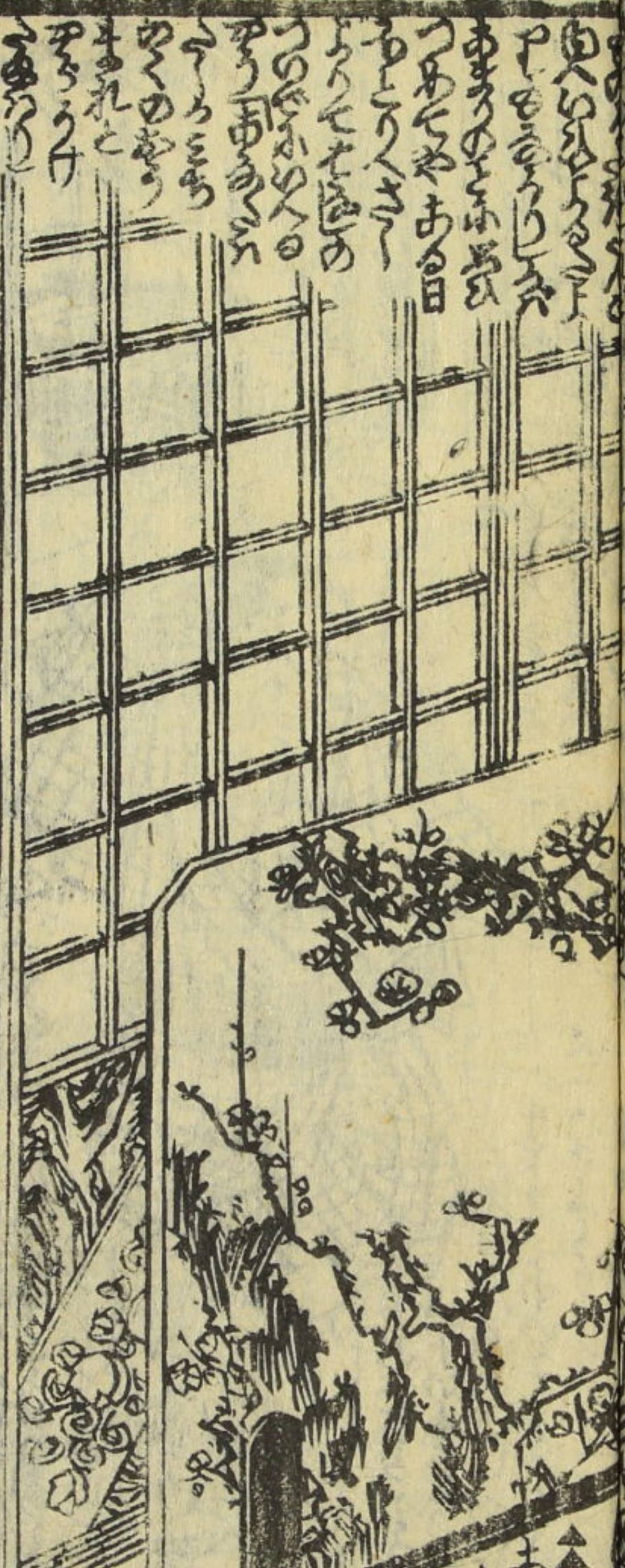
あつちのうらせえきまをうら
めくへえつてあつちがわ
るべしとつたをまはるあつ
ちよつちをまはるあつちを
まはるあつちをまはるあつち
まはるあつちをまはるあつち
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを

あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを

あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを
あつちをまはるあつちを



あわいめ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ



あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ

あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ



あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ
あまのつ

明治四年辛未陽春開板日

厚化粧萬年場田
 十編 種彦作
 貞画

室所涼氏胡蝶卷
 十九編 種彦作
 貞画

鼠洞通夜譚
 八編 種彦作
 貞画

童謡妙々車
 廿四編 種彦作
 貞画

薄倂幼日記
 二十編 春水作
 貞画

十編 種彦作
 貞画

新局九尾傳
 十三編 春水作
 貞画

筆海四國聞書
 十三編 種彦作
 貞画

明鴉墨画西福福
 十六編 種彦作
 貞画

花封蒼玉章
 七編 種彦作
 貞画

大傳大の秋紙
 五編 柳亭作
 貞画

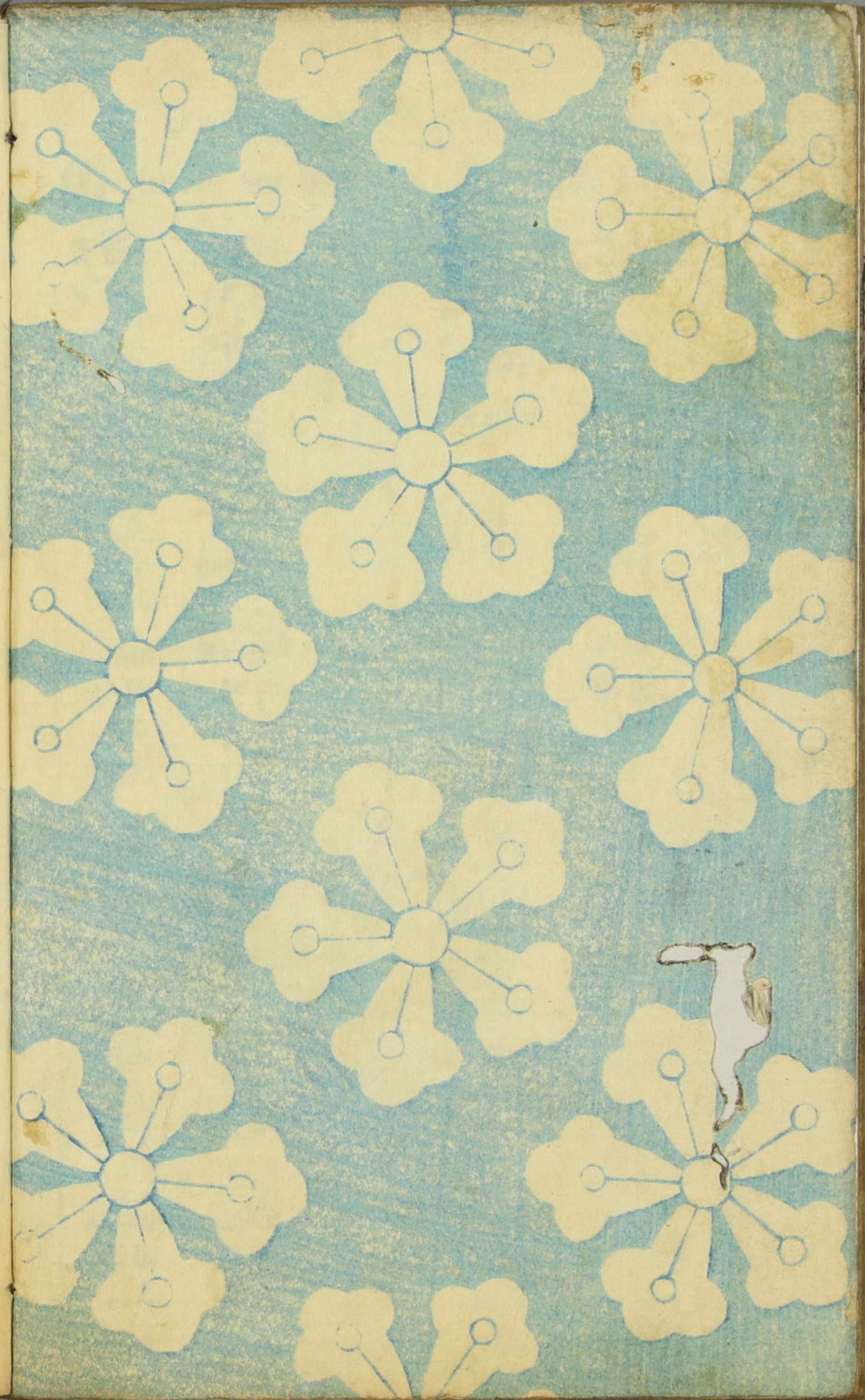
鳥屋吉藏板

朝 十肉丸 大色金三葉 中色金三葉 小色金三葉

春水作國貞画

春水作國貞画

井上氏



井上子守

春水
画



新化集

卷之二